

# IP NEWS

インテリアプランナーニュース

1992.1 VOL. 1



- 北海道IP協会発足にあたって
- 特別企画：建築家とインテリアデザイナー
- シンボルマーク募集コンペ
- ラマダルネッサンスホテル見学会報告

北海道インテリアプランナー協会  
Hokkaido  
Interior Planners'  
Association

## ■北海道インテリアプランナー協会発足にあたって



### ごあいさつ

北海道インテリアプランナー協会  
会長 杉山 宗英

インテリアプランナーの皆様にはご多忙な毎日をお過ごしのことと存じます。

すでにご存じの通り、インテリアプランナー制度が昭和62年発足以来、毎年多数の有資格者が誕生し、全国では17,200名、北海道でも約700名の方がすでに登録され、ご活躍中と思われます。しかし、インテリアプランナー制度そのものが一般に広く認知されているかという点になりますと疑問もあり、ましてプランナー相互の交流や、他の関連団体との情報交換などはまったく行われていないというのが現状ではないでしょうか。

インテリアに対する一般の関心が極めて高い昨今、インテリアプランナーの業務が、個々の力よりもまとまった力を背景に推進されるようになって、それがインテリアの質の向上につながれば、それこそがこの制度の目的とするところではないでしょうか。

91年の9月6日に「北海道インテリアプランナー協会」が発足いたしましたから、道内のプランナーの皆様やこの制度に関心をお持ちの一般の方、学生の方又、関連企業の皆様にご入会の案内をさせて頂いておりますが、既に多くの方々のご参加をいただき、インテリアプランナーへの関心の深さと、協会の責任の大きさを感じております。協会としての活動、事業は既にスタートをしておりますが、92年4月の総会を目指しまして「会員名簿」の作成、会則の整備などを進めているところでございます。道内のインテリアデザイナーの皆様との協力で実効の有るものになりたいと考えております。全国に先駆けての協会設立でございます。何とぞ主旨ご賛同の上、ご加入下さいませようお願い申し上げます。

おわりに、当協会の設立準備にあたりましてご指導ご協力をくださいました方々に厚く感謝申し上げます。協会設立のごあいさつと、ご加入のごあんないとさせていただきます。



北海道初の地上25階建超高层マンション森林公園パークハウス(TOPS)モデルルーム



### お祝い

北海道建築士会  
会長 眞木 光哉

このたび「北海道インテリアプランナー協会」が設立され、北海道において活動される資格者の方々が一堂に会して、その業務の適正な推進にあたられることとなりましたことに対し、心よりお祝いを申し上げますと共に、設立にあられた関係の皆様にご敬意を表するものであります。

インテリアプランナー制度が1987年に発足して以来、すでに数年を経過しておりますが、近年の建築物の高質化の傾向と相まってインテリアに対する関心度は高まる一方であります。

特に、北海道においては我が国に残された雄大な自然環境を背景として、自然環境に密着した特異なデザイン発進基地として胎動のきざしが着実に現われつつあります。

このような時に、インテリアプランナーの皆様が組織をつくられ活動を飛躍されることは、まことに意義のあることであり、又、すばらしいことであります。

我々北海道建築士会といたしましても、皆様方の友好団体として交流を深めながら、さらに北海道の建築文化の発展に努めることをこの機会に意を新たに致すものであります。貴協会の今後のご隆盛を祈念とお祝いを申し上げます。



同左 写真提供は三菱地所株

## 建築家とインテリアデザイナー

現在インテリアデザインは、社会的な認知を受けていると考えられるが、完全に定着しているとは思われない。インテリアプランナー、インテリアコーディネーター等の制度が整い、職業として人気も高いが、内容を見るときはまだ混沌としているといえる。

インテリアデザインには二つの流れがある。一つは「住宅」系、一つは「商業」系、私自身の体験的な理解では、両者はほとんど接することなく、「インテリアデザイン」を進めていたように思われる。「住宅」系は住宅・マンションを、「商業」系は店舗・ショッピングセンター・百貨店・ショールーム・博物館・展示会等を主に手掛けてきた。

「商業」系が社会的認知を受け、本格的な展開を進めたのは1970年の大阪万国博以後で、日本経済の高度成長と共に歩んだ歴史と言える。「住宅」系は、常に建築の指導を受ける位置で仕事をしており、日本の住宅事情ではインテリアの独立は無理であったとも考えられる。

インテリアデザインが建築と同等、もしくは指導的立場に立つ状況が生まれる場面が出始めたのは「商業」系が早い。それは「ソフト」の力と考えられる。

商業デザインでは、技術力による工事よりも、マーケットリサーチ等による市場の意識を反映した「場」の設定が重要であり、それは技術が造る空間ではな

く、人の要求が造る空間ともいえる。時代性・感性・コンセプト等の多様な要素があり、さらに「数字」というシビアな判定基準も存在する。

大阪万国博では、建築家個人のキャラクターや発想によるパビリオンが注目を浴びたが、近年の国際博—筑波博等では広告代理店、デザイナーの組織的なコンセプトワークの下に建築家の出番は限定されつつあるといえる。「商業」系のインテリアデザインが力を持ち得た一つの理由はマーケティングというソフトを持った事と考える。

「住宅」系のインテリアデザインが注目を浴び始め、建築からの独立の地位を持ち始めたのは、特別の有名デザイナーを除くと、ここ数年とあってよい。マンション居住者が多くなった事、豊かさからインテリアに関心が向けられた事によりインテリア商品が多様になり、デザインの範囲も選択の範囲も広がり、建築家が対応出来ない状況が生じ、さらに色彩心理などのソフトが実用される等によりインテリアデザイナーの立場はでき、社会—クライアントが専門家としてインテリアデザイナーの登場を望んだといえる。

「商業」系、「住宅」系のデザイナーの地位を高めた理由の二つ目はポストモダンの運動と考える。「装飾の復讐」といわれたこのデザイン運動は建築、デザ

インに非常に大きな影響を与えた。

バウハウス以来建築、デザインの基本的思想は「機能主義」であり、最も嫌われた言葉は「装飾」である。その思想を忠実に守ったのは日本の建築家であり、デザイナーであったようにも思われる。ポストモダンの運動はそれを打ち砕く力を持っていたといえる。

ポストモダンの様式化された運動は終えたが、「装飾」が「機能」と共存しうる事が認識され、硬直化した機能主義は力を失いつつある。機能主義の中でデザインを限定した事で「装飾」の時代に対し建築家が弱気になり、幾分柔軟だったインテリアデザイナーが立場を高めたと考える。今日、建築家とインテリアデザイナーが対等の立場で協力する空間は多く、商業空間、博物館等はもちろん「住宅」系と「商業」系の接点といえるホテルなどは、その典型といえる。

建築家は技術を背景にデザインを語り、インテリアデザイナーは感性を背景にデザインを語り、明確なコンセプトをベースにデザインの構築を両者で行なう必要がある。ハードとしての業務範囲はあるが、重要な事はデザインに対する考え方であり、デザインの創造力である。しかし、インテリアデザイナーは社会的評価が定まるほどの人的、業界的安定が無いのが実情で、建築家との対等の関係を持つには時間と勉強の必要を自戒する。

今後デザインは業務範囲の細分化が予想され、建築、インテリア等をトータルで統括するアートディレクターが重要な役割を担う事になると考える。

## ■会員紹介 (1991年12月末現在)

顧問	伊藤 寛	加藤 次大	佐賀 清治	菅井 千春	常田 政広	野村 光雄	松村利喜雄	矢萩 寛行
四王天政信	伊藤 敏英	加藤 正昭	迫田 三鈴	杉山 宗英	手島 伸	袴田 勇	三浦 啓	山川 廣信
景山 功	内田 信幸	藤沢 映治	佐近 健男	鈴木 正裕	斗澤 正義	長谷川 涉	三浦 徹也	山田 新二
	浦谷ひろ子	上林 一英	佐藤 一弘	関口 稔	豊瀬 政行	濱 徹	三井 芳江	山田 照子
会員・準会員	遠藤 博	川村 博一	佐藤 克之	高倉 毅	中 恵子	林 功	三橋 雅人	山本 貴一
赤坂 充哉	迫分 孝則	河村利枝子	佐藤 孝	高杉 昇	中井 伸二	原田 恭子	宮崎 久雄	山本真一郎
浅岡 和代	大野 俊夫	上山 勝巳	佐藤 利明	高橋 佑明	中尾 和行	日崎 清二	宮崎 光由	山本 正
東 美智子	大橋 良平	菊地 信一	佐野 高光	高橋 正和	中川 勝	福島 正紘	武藤 哲雄	山本 信
安部 清	小野 悟	北上 光一	式部 佳和	武田 征完	中嶋美也子	藤田 敦子	本江 悠記	山本 正幸
石崎多鶴子	小野 昌幸	北川 愛子	柴田 直樹	田島 英人	中村 純一	前田 伸子	本木由香里	雪田 進
石田 修	小野木康人	北嶋 充	渋谷 貞寛	巽 雅俊	名古屋志津子	真柄 道子	森 敏則	湯上 剛志
石田 敏雄	笠井 清	木下 隆司	島 幸夫	立花 善春	奈良 成章	松井 雅樹	森下 武弘	吉田 宏
泉 悦子	片桐 幾子	熊谷 宗久	清水 博子	田中 恵子	南部 敦子	松田 芳信	諸澤 マサ	吉本 政治
泉屋 駒雄	加藤 覚	木樽 岡	清水 良洋	塚本由美子	新妻まゆみ	松村 貢一	守田 和平	吉本真知子
一宮 忠雄	加藤 順子	齋藤 征二	白鳥 洋一	角田 浩造	西代 明子	松塚 清子	安田 寛	米坂フミ子



# シンボルマーク 募集

北海道インテリアプランナー協会設立を記念して、シンボルマークを募集します。どしどし応募下さい。(応募要項は次のとおりです)

## ■テーマ

インテリアプランナーの資格制度が、建設大臣認定事業として、財建築技術教育普及センターのもとに実施されてから4年、すでに道内有資格者も700余名を数えるに至り、インテリアの設計等に関する知識、技能の向上、更にインテリアプランナー相互の情報交換、親睦等を目的として、平成3年9月に協会の設立がなされました。

そこで、広く当協会と、その役割、立場を認識していただくために、シンボルマークを募集により採用、制定することになりました。美しく簡潔なデザインをご応募下さい。

(英文名: HOKKAIDO INTERIOR PLANNERS' ASSOCIATION)

## ■応募資格

インテリアプランナー、インテリアプランナーを目指す方。

## ■応募方法

- 作品の応募点数は自由です。
- 作品に使用する紙は長4封筒(9cm×20cm)に入る程度の大きさとし、折れない様に厚紙を同封して下さい。白地であれば紙質は問いません。(コピー可、厚紙等でパネル化はしないで下さい)
- マークの表現は7cm角以内におさめ、天、地を裏面に記入して下さい。
- 着色は自由です。但し2色以内(白黒を含めず)にして下さい。
- 作品コンセプトを原稿用紙(200字詰)1枚にまとめて下さい。(必ず提出のこと)
- 作品の裏面に、住所、氏名、年齢、電話番号、勤務先名、勤務先住所、電話番号を明記して下さい。(共同作品の場合は代表者1名のみを記入)

- 作品は未発表のものに限ります。
- 作品は返却しません。
- 採用作品の著作権は本協会に帰属し、発表、展示、印刷物等に関する権利は本協会にあります。

## ■提出先、問合せ先

〒062 札幌市豊平区豊平6条10丁目1-58-414 北国の住まい相談所内 北海道インテリアプランナー協会事務局  
TEL011-232-6761 FAX011-232-6762  
(郵送、直接持参何れも可)

## ■締切 平成4年6月末日

## ■審査員

杉山宗英(当協会会長)、木樽岡(同副会長)、吉田宏(同)、山本信(同幹事長)、湯上剛志(同常任理事) 以上5名。

## ■賞

最優秀作品 1点 賞金 ¥100,000  
佳作 3点 図書券(¥10,000)

## ■発表

平成4年7月中旬。作品入選者に文書で通知し、広報誌に発表します。

## ■ラマダ・ルネッサンス・ホテル・サッポロ見学会報告

### 注目された 建築の力とデザインの新たな展開

11月27日札幌発・・・インテリアプランナー協会設立第1回目の見学は札幌開拓発祥の地となる豊平川畔の同地に建設され平成3年9月7日にオープンとなったラマダ・ルネッサンス・ホテル・サッポロに照準が向けられたのです。

総工費103億、客室323室札幌で初めての外資系ホテルとして国際的な洗練さと「五つ星」と評価されるホテルだけに注目度が高く、最高の見せ場となるロビーは空間と直線を生かしたデザインモチーフの中にアーチ型天井の壮麗な天井画がホテル全体のコンセプトに従いルネッサ



見学会には53名が集まった



ロビー  
フレスコ  
画

ンスの雰囲気を感じ出しています。また大理石のパターン使いは石を知りつくしたうまさを感じさせそれらが五感を満足させるには十分な快いカルチャーショックを覚えるのです。

茶室への案内もあり千宗室氏が名付親による「北辰庵」は利休のうちたてた「和敬静寂」の境地ともいえる空間をつくり日本情緒を保っています。

当日は53名の予想以上の参加者となり短時間ながら、情報交換、デザイン談義の輪ができ、時流に乗った見学会であり、デザインの新たな展開と建築が持つ力によって地域や景観さえも大きく変えていくことを改めて感じ得た見学会であったのです。

## ■見学会のお知らせ

日・時 1992年2月18日(火) 10:30~12:00  
場所 カデル2・7  
会費 1,000円 先着30名

## ◎編集後記

はじめての編集作業のため、悪戦苦闘をしましたが、やっと創刊号を発行することが出来ました。今後、会員の皆様のお知恵を借りたいと思います。

### 広報交流委員

小野 悟 野村光雄 湯上剛志  
中井伸二 吉田 宏  
山田照子 吉本真知子

表紙木版画 「美徳山三仏寺  
投入堂蔵王権現像」

作者 中井 一民 (1978)

発行日 1992年1月  
発行者 北海道インテリアプランナー協会  
〒062 札幌市豊平区豊平6条10丁目1-58-414  
北国の住まい相談所内  
TEL(011)232-6761 FAX(011)232-6762  
編集 北海道インテリアプランナー協会  
広報交流委員会  
印刷 株式会社 須田製版

## ■北海道インテリアプランナー協会の概要

### 目的

本会はインテリアプランナーの技術の向上、社会的地位の確立、インテリア知識の普及啓発のための活動を行い、併せて会員の相互の親睦を図ることを目的とします。

### 事業

- 1) インテリアの企画・設計・監理に必要な知識と技術の向上のための調査研究、見学会・講習会の開催、情報交流などの事業。
- 2) 広報誌の発刊、相談業務、名簿の発行などインテリアプランナー業務の周知を計り、社会的地位を確立するための事業。
- 3) 展示会、講演会等に一般にインテリア知識を広めるための事業。
- 4) 会員相互の親睦を図るための事業。
- 5) その他本会の目的達成に必要な事業。

### 北海道インテリアプランナー協会組織

会員 197名

### 会員の種類

- 1) 正会員 インテリアプランナー資格登録者。
- 2) 準会員 本会の目的、事業に賛同する個人。
- 3) 学生会員 インテリアプランナーを目指す学生。
- 4) 賛助会員 企業、団体。

### 幹事会

会長が召集し、会務について審議決定します

会長 1名

副会長 若干名

幹事 若干名

会計監査 2名

### 通常総会

毎年1回開催し、事業、決算その他諸般の会務を報告して承認を得るほか、提出議案を審議決定します。

### 臨時総会

幹事会で必要と認めたとき会長が召集します。

### 事務局

- ・事務局に、事務局長をおきます。
- ・事務局長は、幹事の中から会長が指名します
- ・会計は事務局が担当し総務委員会の管轄とします。

### 委員会

総務委員会 組織の強化と組織運営の活性化・円滑化を進めるための活動を行う。

- (1) 総会の運営
- (2) 会員の増強
- (3) 支部設置についての検討立案
- (4) その他組織に関する諸事項

### 部会

委員会の必要に応じて設置され、専門的・具体的テーマの解決のための活動を行う。

交流委員会 会員相互の交流及び広く一般に認知・理解を深めていただくための他団体・組織との交流活動を行う。

- (1) 会員相互の交流・親睦
- (2) 他団体・組織との交流・親睦
- (3) その他交流に関する諸事項

事業委員会 会員及び広くインテリアプランナーの資質の向上のための見学会、研究会、勉強会等の活動を行う。

- (1) 見学会の開催（年4回程度）
- (2) 設計製図研究会（インテリアプランナー資格取得）
- (3) その他事業に関する諸事項

情報委員会 会の活動の報告、会員相互の情報交換及び広く一般に認知理解を深めていただくための情報活動を行う。

- (1) 広報誌（IPニュース）の発行（年3回程度）
- (2) 会員活動の情報収集
- (3) その他情報に関する諸事項

専門委員会 必要に応じて設置され、新しいテーマ、特別のテーマ解決のための活動を行う。